

謹啓

立夏の候、貴殿におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、この度、五月二十二日（日）に開催された「佐渡國鬼太鼓どつとこむ」は、皆様のおかげをもちまして、盛大かつ無事に終了する事ができました。これもひとえに皆様方が、このイベントの趣旨を理解され、御協力を頂いた賜物と感謝致しております。

芸能十七団体、物産二十一団体の総勢四百五十名が参加し、地元の伝統芸能の披露と物産の販売に汗を流してがんばって頂きました。

当日は、朝の雨も上がり、時には熱いくらいの晴天になりました。

開会早々から続々とお客様が来場し、あっという間に満員の状態となりました。その流れは最後まで途絶える事が無く、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年、二十周年を記念して行なわれた北越高校書道部の書道パフォーマンスの「想・魂・響」の文字は、「魂に響け」という熱い想いととも、芸能団体の皆様に大きな力を与え、佐渡の伝統芸能の奥深さを観客の皆様へ伝える事が出来たと思います。

また、物産販売では佐渡の特産品や、手打ちソバ、地魚の炉端焼きや干物などの旬の海産物を求め、多くのお客様が列をなしていました。

観客動員数もコロナ対策を万全に行い、昨年の倍以上、目標人数を上回る三千五百七十五人を数え、大変感激致しております。

また、イベント後の島内コロナ新規感染者数は、一週間後までゼロであり、コロナ対策は成功しました。

今後は、今回の経験を足掛かりに、アフターコロナ・ウィズコロナの状況下でも、これまで培ってきた経験を生かして、地元の若い力を結集し、若者達が誇りを持って暮らせる佐渡ヶ島を目指し、この佐渡に一人でも多くの若者が増えていくよう取り組んでいく所存であります。そして、このイベントが観光の起爆剤として全国、全世界に発信され、今後のインバウンド、佐渡観光の発展に一役かえるよう、今後とも御支援、御協力をよろしくお願い申し上げます。

敬具

令和四年五月吉日

佐渡國鬼太鼓どつとこむ実行委員会

会長 斎藤 勉